

# 増穂だより

M A S U O D A Y O R I

高等学校卒業式典号



芝浦工業大学柏中学高等学校

<http://www.ka.shibaura-it.ac.jp>

〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地

TEL 04-7174-3100(代) FAX 04-7176-1741

編集 総務部

発行日 平成31年3月2日

印刷所 株式会社横濱綜合写真

## 未来を思い、今を見つめる

## — 37期卒業 —

### 2018年度芝浦工業大学柏高等学校卒業式告辞

— 学校長 野村 春路 —

#### Visionを持つこと

今日ここに柏高等学校を巣立って行くみなさんに「Visionを持つこと」についてお話したいと思います。2012年のノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥先生のことはみなさんご存知のことと思いますが、現在京都大学iPS細胞研究所所長・教授として生命科学の最先端分野において活躍している研究者です。この山中先生は31歳の時にアメリカ合衆国カリフォルニア大学の研究機関に留学をしています。当時の彼の指導教授の一人は、ロバート・マーレー（Robert Mahley）先生という方で、その研究所長でした。そのマーレー先生がある時、若手の研究者を集めて、研究者として成功するために、また人間として成功するためには、二つのことが大切であるという話をしたそうです。その二つは“VW”、すなわち“Vision”と“Work hard”でした。その後別の機会にマーレー先生は山中先生を呼んで、「伸弥のVisionは何か？」と尋ねたそうです。それに対し山中さんはこう答えました。「僕は31歳にもなって、妻、妻も医者なのだが、自分の仕事を中断してまで一緒にアメリカへついて来てくれ、さらに1歳と3歳の娘も連れて来ている。だからもう僕としてはここで一生懸命実験をして、一旗あげないと日本に帰れない。いっぱい実験をして、良い論文を書きたい。そして、将来いい職に就きたい。」するとマーレー先生は「それはVisionではない。それはWork hardの一部だ。論文出すのも研究費もらうのもいい職に就くのも、それらはWork hardするための手段だ。本当の伸弥のVisionは何なのだ。」と語りました。それを聞いて山中先生は、何のために医者をやめて研究者になったのだ、何のために奥さんと子供たちを連れて、アメリカまで来て研究しているのだ、と自問しました。そして、研究をして医学の力で病気を克服したいという単純明快な思いから研究者になった、これこそが自分のVisionだということを思い出したそうです。山中先生は、このエピソードを踏まえ、さ

らに続けます。「私を含めて日本人は、『一生懸命に働いてはいるけれども、何をしているのかわからない』という状態に陥ることがある。日本人はしっかりとVisionを持つということが苦手である。Work hardは得意だが、まずVisionを持つておくこと。その上で、そのVisionのためにWork hardすることが大切である。若い人へアドバイスしたいことは、他の人のまねをせず、本当に新しいことに挑戦するためにVisionを持って、粘り強く取り組むことである。」

Visionを持つこと、別の言い方をすれば、志を持つことが大切なのです。とは言え、みなさんを含め今我々は、諸分野に起きている大きな社会の変化の中で、先行きが見えにくくなっている現状があります。そのような中で、どうVisionを持てばよいのでしょうか。山中先生のように明快なVisionにたどり着けない人もいます。そこで、ここでは私は次のような提案をしたいと思います。それは以前、集会でお話したことがあります。国連が中心となって世界各国で推進している“SDGs”の取組についてです。これには17の目標の下に、169のターゲットが設定されています。これらを精読し、社会の課題と自身の将来を結びつけて考える視野を持ち、社会の課題を自分事として捉え、自分が何をしたいのか、何ができるのか、と考えを深めて行く中で、自分のVisionが見えてくるかもしれません。169ものターゲットがあるのですから、文系に進学する人も、理系に進学する人も、すべての卒業生が必ず一つは自分が貢献できるターゲットを見つけることができると思います。

みなさん一人一人が、未来を変える力を持っています。その未来に進むために卒業式にあたり、これからはVisionを持つことが大切、そして社会の課題を自分事化する中から、Visionをつかむこととお話しました。これをみなさんへのメッセージとしたいと思います。

#### 目次

学校長告辞 / 式次第	1 P
受賞の喜び / 巣立ちゆく者たちから	2 P
巣立ちゆく者たちから / 贈る言葉	3 P
贈る言葉 / 保護者から	4 P

一、開式の辞	一、開式の辞
一、校歌斉唱	一、卒業証書授与
一、閉式の辞	一、賞状賞品授与
一、卒業生保護者代表謝辞	一、学校長告辞
一、記念品贈呈	一、学校法人代表式辞
一、答辞	
一、螢の光斉唱	
一、送辞	



## 贈る言葉

副校長

「どんな時も人生には意味がある…」辛いとき、人は「なぜ自分だけが…」と自らの不運を嘆きます。しかし、後から振り返れば、それには必ず意味があります。「どこかに、あなたになされるのを待っている何かがある。あなたを必要としている誰かがいる。あなたはその人のためにできることがある。」一度きりの人生です。一所懸命生きてください。

教頭

「叡智」という言葉があります。一般的には「優れた智慧」として使われていますが、本来的には「物事の本質を理解して考えられる智慧」を意味しています。今後のステージで真の「叡智」を発揮する力は、今までの本校の生活のなかで十分に培われているはずです。自信をもつてのぞんでください。ご卒業おめでとう、そして皆さんの今後のご活躍を期待しています。

学年主任 1組副担任

37期生のみなさん卒業おめでとうございます。今日のこの日を迎えられたのはみなさん1人だけの力ではありません。支えてくれた全ての人への感謝を忘れず、卒業という慶びを噛みしめてください。これからも出会いを大切に、皆さんのことを学び、自分の世界を広げていってください。成長した姿と出会えることを楽しみにしています。

1組担任

真っ白な紙に数字を書く。紙に書かれた数字は数ではない。では紙に書かれた数字は何なのか。それはただの「情報」である。今度は紙に名前を書く。するとその名前も私ではなく、「情報」であると気づく。情報は変わらない。でも私は変わり続けている。変われることは人間の希望である。

2組担任

卒業おめでとう。以下の言葉をみんなに贈ります。「自分の周りの人を幸せにできる」「自分自身が幸せを多く感じられる」素敵な大人になってください。私は37期生を担当できて幸せでした。ありがとう。“芝柏 Family”がさらに幸せになりますように。

## 巣立ちゆく者たちから

3年間の思い出

4組

皆さんは卒業に当たりどんなことを想っているだろうか。

僕は3年間この学校で過ごして、沢山の幸福を感じた。それは、沢山の友達ができ、素晴らしい恩師に出会い、部活動を通じて人間として成長させてもらい、忘れられないような良い思い出ができたことだ。

僕はサッカー部に所属していた。強豪が聳く千葉で県ベスト16という目標を立て日々練習に励んだ。正直、辛いことも沢山あった。仲間同士で喧嘩することもある。しかし、「喧嘩するほど仲が良い」という言葉通り、日に日に大切な存在になっていた。そして、目標である選手権ベスト16になることができた。

どんなことがあっても支え合い、高め合った一生の友達に僕はこの学校で出会うことができた。

そしてなにより、こんなに良い体験をさせてくれた顧問の先生、3年間毎日支えてくれた家族に感謝したい。

感謝

6組

入学から3年の月日が流れ、高校生活は終わりを迎えます。この3年間はとても充実していました。文化祭やオーストラリア研修などの学校行事はもちろん、部活動もいい刺激になりました。正直に言うと私に向いている部活ではなかったですが、この部活があったからこそ、心身ともに大きく成長することが出来ました。

もちろん、この3年間楽しいことだけではありませんでした。部活と勉強の両立が出来ず、不安や焦りを感じることも多くありました。夏の辛い練習や、一日中続く勉強に何度も挫けそうになりました。そんな時、切磋琢磨する友人や支えて下さる先生方がいたからこそ、辛いときも逃げずに立ち向かうことが出来ました。

私は多くの友人と先生方に恵まれ幸せです。今まで本当にありがとうございました。

卒業

5組

遂に卒業の時を迎えました。中入生は6年間、高入生は3年間の芝柏生活が終わろうとしています。皆で同じ学校に通い、同じ時間を過ごしてきた学校生活とは違い、これからの人生は一人一人全く違ったものになっていくと思います。そして、その進路の途中で様々な試練が皆さんに立ちはだかることがあると思います。そんな時、僕はクラスの皆に思い出して欲しいのです。全ての行事に全力で取り組み、勉強も本気でこなし最強のクラスの一員であったことを。その経験、誇り、思い出がこれからの人生において大きな支えとなることを確信しています。



夢への軌跡

7組

大学受験を控えた大切で難しい1年でしたが、7組は個性豊かで賑やかなとても楽しいクラスでした。球技大会や合唱祭では皆で協力して取り組み、良き思い出になりました。

“There is always light behind the clouds.”

これは僕のお気に入りの一節で、「どんなに辛く苦しい状況でも、それを切り抜けた先には明るい未来が待っている」という意味です。皆がそれぞれの道を歩んでいく中でこれまでよりも遥かに多くの困難に直面することがあるかもしれませんが、各々の夢や目標に向かって挑戦をし続け、将来笑顔で再会できることを願っています。

1年間皆さんのことがありました。すべてが皆のかけがえのない思い出になったと思います。頼りないクラス会長でしたが1年間ありがとうございました。

## 受賞の喜び

創立者有元史郎記念賞  
毎日が喜び

この度は素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思います。自然豊かな環境の中で丁寧にご指導くださった先生方や楽しい友人たち、元気な後輩たちと共に6年間生活させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

高校生活では、普段の生活から楽しく過ごし、たくさんの楽しい思い出ができました。大変なこともありましたが、それも含めて今の自分につながっていると感じています。

これから出ていく世界に対して、楽しみな気持ちと同時に不安もありますが、高校生活で得たものはずっと支えになってくれるものだと思います。



千葉県知事賞  
経験と成長

芝柏での六年間は、思い返すと本当に充実した時間でした。

もちろん「充実」というのは、決して楽しい事だけを指してはいません。

私にとって、この六年間は正直に言っただけ辛い事がとても多く、泣く日々もありました。

しかし、その辛い経験から多くの事を学んだのも事実です。卒業する今の私は、入学した時の自分より、はるか強くなっていると感じます。これから大人になるにつれて、もっと大変な事、挫折する事もあると思います。しかしその度に、この六年で培ったことを活かし、成長していきたいと考えています。

最後に、今回このような賞を頂いた事を大変嬉しく思います。

六年間支えて下さった先生方、そして友人と家族に心から感謝しています。

千葉県私立中学高等学校協会賞  
仲間との日々

まず、芝柏での生活の最後にこのような賞を頂いたことを感謝いたします。そして、これまで私を支えてきてくださったすべての人に御礼申し上げます。

私は高校3年間、自ら考え、意見を持って行動することを意識してきました。その中で、目標を達成するには自分一人の力だけではなく、多くの人の協力が必要であるということに改めて強く感じたように思います。学校生活では、様々な場面でこのことの大切さに気付かされました。芝柏で頼れる仲間がたくさん出会い、日々を送れたことは、これからも忘れることなく皆と語り合える思い出になるでしょう。充実した6年間を過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。

さん年さん組

3組

3年3組は受験生なのに元気が有り余っていて、受験に対する不安や焦りを感じさせないようなクラスで、元気が過ぎて授業前など、自分の号令がちゃんと聞こえてくるのかどうか結構心配な時もありました。

自分がしっかり声をかけなかったせいもあり、何故か全校集会で3組だけほかのクラスは2列で並んでるところを1列で並んでるようなこともありました。

しかしクラスの大勢の人が有志で文化祭に参加し作品を作り賞を貰ったことや、合唱祭では自ら率先してクラスをまとめてくれる人達がいたり、こんな不甲斐ない自分でもクラス会長を務められるほど自主性に富んでいて、さすがが高校3年生と思わせてもらえるような一面もありとてもいい集団だったと思います。

これは担任が相馬先生であった事もつよく影響していると思ひ、自分は最後の1年を相馬先生と3組のみんなと過ごせたことをとても嬉しく思います。

大切なもの

1組

私は中入生なのでこの学校に6年間も通いました。卒業を意識するまでは、この学校に特に思い入れは無かったのですが、いざ卒業となると色々なことを感じます。今、私はこの学校に入学して良かったと思っています。それはこの学校で様々なことを経験できたからではなく、たくさんの人と出会うことができたからです。先生たちも含めて6年という長い付き合いの中で私はたくさんのことを経験しました。でもこれはこの学校に入ったから経験できたということではありません。他の学校に行ったとしても似たような経験ができたはず。しかしこの学校にはこの学校にしかない出会いがありました。私はこの学校で多くの人と出会い、そして成長していくことができました。本当に37期に出会えて良かったです。私はこの学校での出会いを大切にしながら、この学校を卒業しようと思います。

「夢を叶えてから人はどう生きるか」

2組

卒業おめでとうございます。芝柏での3年間が終わりました。進学する人、浪人する人それぞれいるかと思いますが。卒業は人を離れさせます。人は変化を望まない生き物です。残りたいと思う気持ちや過去を美化したりすることみなさんもあると思います。日向の中は暖かいしフォローの風はいつだって優しい。けど居心地の良さに甘えていたら何も起こらないし、時折の逆風は心を強くします。そして過去がどんなに眩しくても未来はもっと眩しいかもしれない。その変化を強制的に行うものが卒業だと思っています。生まれればいつか終わります。終わりは通過点でしかなくこれからだって何度もあります。ただ終わればまた始まります。夢が叶うことを終わりとして、そのあとどう生きるかによって始まり方は変わってくると思います。未来はいつだって新たなときめきと出会いの場です。変化を恐れず共に立ち向かおう。



# 贈る言葉

## 3組担任

卒業おめでとうございます。大事に大事に育てられてきた時代ももう終わりです。時として冷たく厳しい世の風の中を、逞しく生き抜いていって下さい。少し疲れを感じた時は自然に目を向けましょう。自然はいつも愉悅に満ち、優しく語りかけてくれる筈です。そう、世界の声を聴こう！お元気で！

## 4組担任

最後の一年間、ともに過ごし、皆さんの努力と活躍を見守ってきました。私自身もともに成長することができました。卒業後それぞれが自分らしい人生を歩んでほしいと願っています。周囲の人々への感謝の気持ちを大切に、周りからのアドバイスを真摯に受け止める謙虚さを忘れずに、飛躍してください。

## 5組担任

卒業おめでとう。5組の皆さんには、敷かれたレールをただ進むのではなく自ら行動し話し合い、納得のいく結論を出して進むようなクラス作りをしてもらいました。皆さんはその素地ができています。今後多くの分岐点があります。自ら考え、周りと相談し、後悔しないよう歩み続けてください。

## 6組担任

### 「それだけで」

役に立つとか たたないとか  
それだけで人を見るのはやめよう  
君がいる  
それだけで 尊いのだ  
ときどき 心の隙間に  
忍びこんでくる淋しい思いも  
人間である証拠  
挫折があるから  
大きく 強く になれるのだ  
ナンバー・ワンでなくてもよい  
君はこの世で唯一の存在  
オンリー・ワンになれ  
君がいる それだけで  
世界が明るくなる

## 7組担任

卒業おめでとう。生きることは、自分自身の物語を紡ぐこととも言えます。だから、いつの日かその物語が僕らを縛り付けることがあったとしても、その書き手は他でもなく僕ら自身です。変化することを恐れない、そんな大人になりたいものですね。強く、優しく、生きていってください。

## 2組副担任

卒業おめでとう。受験勉強という振り分けゲームの中にいると、ともすれば狭視野になります。これからはラディカルにもものを視て、沸々と探求心につき動かされ、大いに学んでいきましょう。

## 3組副担任

出会いや経験が、自身を深め、世界を広げてくれます。これから刺激的な日々がみんなを待っているはず。時には失敗もあるけれど、それも経験！沢山の出会いと経験に恵まれますように。卒業おめでとう。そしてありがとう。

## 4組副担任

卒業おめでとう。人生の中の大きな区切りの一つが高校卒業です。これは終わりであると同時に、新たな始まりでもあります。18歳から選挙権が与えられ、大人になります。世の中を非傍観者としてみる始まりとして下さい。

## 5・7組副担任

37期の皆さんへ。自分のやりたいことを模索し、それを目標に頑張ったし、これからも頑張ることと思います。今後、思い通りにいかないことも多々あると思います。その時は、自分が「できること」を考えてみてください。

## 6組副担任

ご卒業おめでとうございます。ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 1・2年次担任

「燕雀いずくんぞ鴻鵠の志を知らんや」私が恩師に学んだ故事成語です。大志を抱く人の考えは、一般人には理解できないという意味です。今右へ習えという風潮が強いですが、37期のみんなには、自分の将来を見据えつつ、その将来に役立つ学びを継続して欲しいと思います。

## 2年次副担任

ご卒業おめでとう。これまで得た多くの仲間や思い出、様々な経験は皆さんの助けになってくることでしょう、辛いこと苦しいこともあると思いますが、焦らず確実に進んでいって下さい。

## 2年次副担任

ご卒業おめでとうございます。1つの区切りとなりますが、人生まだまだこれからです。次は就職活動が待っています。自分に合った職業と出会えるように、様々なことに挑戦して下さい。

## 1年次副担任

37期の皆さん卒業おめでとう。私は1年6組の副担任をしました。上野先生の仕事ぶりに感心し、生徒の態度も立派な子が多いなあと、心に残っています。今後の活躍を期待しています。

## 1年次副担任

家族や友人……。皆さんはたくさんの人に囲まれて生きています。その人たちは、皆さんが元気であることが何よりも幸せなのです。頑張って、でも無理をしないで。

## 37期卒業生 保護者挨拶

### 37期生学年代表

高校を卒業するにあたり、保護者といたしまして、一言お礼を述べさせていただきます。

校長先生をはじめ、教職員の皆さま、保護者一同、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さま、保護者の皆さま、それぞれに、うれしかったこと、苦しかったこと、様々な思い出がたくさんあるだろうと思います。今、

振り返りますと、皆さまと過ごした時間は、あっという間の、そして楽しく実りあるものだったと感じております。

卒業生の皆さまは、それぞれの道を歩んでいきます。その道は、決して平坦なものではないでしょう。進む先には、厳しい登り坂があるかもしれません。躓いて立ち上がることが難しく感じることもあるでしょう。しかし、皆さまには、一緒に学んだ多くの仲間がいます。そして、

ご指導をいただいた先生方がいます。

「われ以外みなわが師」

一人一人が自分の歩みのなかで、時には互いに学びあい、育てあい、前に進み続けてください。

先生方はじめ、保護者の皆さま、今後とも彼らのご指導のほど、よろしく願いいたします。

最後に、芝浦工業大学柏高等学校のご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を祈念いたします。私からのお礼の言葉とさせていただきます。